



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 第11回通常総会 報告

2015年度事業計画案、活動予算案 および  
新役員案が承認されました。

5月9日(土)午後2時より、日光市民活動支援センターにて、第9回通常総会を開きました。出席正会員33名(うち表決委任者23名)により、会の成立を確認。昨年度事業、決算、本年度の事業計画および予算が承認されました。

### ■ 事業計画

#### (1) 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営

子どもの居場所 月～金曜日:12:30～16:30

学びサポートひろば 毎週金曜日:17:00～21:00

予算:2,309,400円

#### (2) 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発

学びサポートひろば、発達障がいを持つ子どもなどへの学習サポート、ワカモノフェスタなど地域行事の支援 予算:90,000円

#### (3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援および情報提供

ホームページやメールによる学びの支援と活動紹介。

予算:92,400円

#### (4) 教育や福祉についての相談、情報提供および障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

会報作成(200部)、教育や福祉についての相談、子育て・親育ち勉強会や茶話会の実施。 予算:22,000円

#### (5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動

引きこもる子を持つ親の会との話し合い、障がいのある人の自立に関する相談。 予算:10,000円



(6) 自然環境の中での学び、自然環境保全の啓発活動  
自然観察、畑作り、川遊び等。環境研究班による放射能・放射線測定 予算:77,000円

#### (7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営

子育て・親育ち勉強会 予算:20,000円

#### (8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

特定指定相談支援事業・相談支援事業 予算:728,000円

通常総会資料は以下のアドレスから閲覧できます。

[www.nantonakuno.net/board/gm2015.pdf](http://www.nantonakuno.net/board/gm2015.pdf)

事業(1)「子どもの居場所」は日光市からの委託事業です。委託金は204万円なので、30万円近い不足分は本会より支出しています。(2)～(7)事業のについても同様に、会費および寄付金が充当されています。

(8)「相談支援事業」は指定特定相談支援「さくらそう」および委託相談(栗原理事の日光市役所出向)の収入により運営されています。

### ■ 役員を選任(敬称略)

理事10名および監事1名について、通常総会で重任が承認されました。以下のメンバーが引き続き会の運営にあたります。

理事:金谷真奈美、栗原真佐美、白井佐智子、手塚郁夫、中島直弥、西尾敬子、沼尾忠宏、村上幸子、吉成啓子、吉成勇一  
監事:山本佳子

任期は本年7月1日から2017年6月30日となります。

7月1日に第66回理事会が開かれました。理事の互選により、手塚郁夫が理事長に再任されたことをご報告します。(手塚)

## 目次

第11回 通常総会報告	1
川むしたんけん隊 in 小倉	2
活動日誌	3
学校外での学びと義務教育	3
こんな本はいかが・30	4

## 居場所のひとこま

5月末、花が開き始めたジャガイモの横に、キュウリ、ナス、スイカ、カボチャを植えました。収穫が楽しみです!(右写真)

ジャガイモは7月に入り、居場所の若者ががんばって収穫してくれました。今年はとても大きいジャガイモがとれたので、みんな驚き、喜んでいました。(N)



# 川むしたんけん隊

5月30日(土) 午前10時～ 行川(上小倉橋近く)にて

今回の「川むしたんけん」も昨年に引き続き行川で実施。昨年は千本木(5月)、明神(10月)でしたが、さらに下流の上小倉橋の少し下流の河原を採取地点としました。採取条件は以下のとおりです。

天気:晴れ(気温 28℃、水温 24℃)

川幅:約30m、水面幅:約10m

生物を採取したのは右岸

生物採取場所の水深:5～20cm

流速:毎秒 20cm

川底:礫(れき)

水の濁り:なし、におい:なし きれいな水

当日はお天気にも恵まれ、殻を脱ぎ捨ててたったいま飛び立とうとしているコオニヤンマを数匹発見。子どもも大人もいっしょに川むしを探しました。見つかった指標生物は次のとおりです。とくに多かった生き物は太字で示しました。小倉の行川は「きれいな水」に分類できそうです。

(水質階級Ⅰ)

ナミウズムシ、**ヒラタカゲロウ類**、カワゲラ、ヘビトンボ

(水質階級Ⅰ～Ⅱ)

**ヒゲナガカワトビケラ類**、**タニガワカゲロウ類**

(水質階級Ⅱ)

カワニナ類、コオニヤンマ、ヒラタドROMシ類

天候、水量、ロケーションなど満点に近い条件でした。子どもたちの参加が少なかったのは、どうやら地域や学校の行事と重なってしまったためらしく、実施日については、次回の課題となりました。(T)



写真右上  
こんな川です。

写真右中  
採取中

写真右下  
採取した川むし  
を分類、まとめ

写真左  
羽化したばかりの  
コオニヤンマ  
右に脱ぎ捨てた  
殻が見えます

## 子育て・親育ちの茶話会

場所: 子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時: 毎月第2月曜日(午前10時～12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費: 300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel:090-3227-7079)

# ☆ 活動日誌

- 4月17日(金) 通信「なんとなくのひろば」第39号 発行  
 4月26日(日) ベリー会：月例会  
 4月26日(日) ワカモノフェスタ実行委員会  
 5月9日(土) 第65回 理事会、第11回 通常総会  
 5月11日(月) 茶話会(第58回)  
 5月19日(火) 児童・生徒指導担当者等連絡会議参加(藤原公民館)  
 5月23日(土) ワカモノフェスタ実行委員会  
 5月31日(日) ベリー会：月例会  
 5月30日(土) 川むしたんけん隊(小倉・行川にて) 講師：塚崎庸子さん  
 6月8日(月) 茶話会(第59回)  
 6月15日(月) 地域包括ケア学習会参加  
 6月27日(土) ワカモノフェスタ実行委員会  
 6月28日(日) ベリー会：月例会&勉強会  
 7月1日(水) 第66回 理事会  
 7月6日(月) 茶話会(第60回)  
 7月10日(金) 子どもの心の相談支援体制強化事業支援関係者研修会  
 子どもの心の問題への対応のポイント～早期介入の大切さ～  
 7月13日(月) 社会福祉法人 生活クラブ風の村(千葉県) 視察研修



7月半ば、草刈り後にワラビがまた芽を出しました。(日光市大沢)  
 食べられそうな芽を放射能測定器にかけたところ、キログラムあたりおよそ80ベクレルが検出されました。  
 とくにワラビの芽は放射性セシウム濃度が高いようです。  
 食品も測定できます。お問い合わせください。(なんにわ環境研究班)

## 学校外での学びと「義務教育」(1)

文科省の「不登校に関する調査研究協力者会議」が始まって半年が過ぎました。昨年度末にはアンケートが「なんにわ」あて直接送られてくるなど、会議を身近に感じる機会がありました。最近では新聞報道もなく、文科省のホームページをチェックしても、まだまだ結論のようなものは見えません。「義務教育」という制度を維持したまま、既存の制度の枠内に「学校以外の選択肢」を取り入れることができるのか、この話を知ってから時折考えてきました。

7月5日の下野新聞に丸山隆さん(県カウンセリング協会理事長)が「少数数学級実現の好機」という論説を寄せています。その中で丸山さんは、文科省が「不登校解消の手段としてフリースクールを検討する」一方で、「小中教員4万人削減」を打ち出していることに注意を喚起しています。「既存の団体等を義務教育に取り込むことで、実は費用と労力をかけずに表面上不登校児を減らす、数合わせの面がある。そこからは現在の学校教育の問題点や、それらを改革しようとする意欲が感じられない」と。私も同様の懸念を持つ一人です。本通信38号に、「民間フリースクールへアウトソーシングすることでの教育費削減が目的ではという心配もある」と書きました。

文科省・調査研究協力者会議等(初等中等教育)<sup>(\*)</sup>によると、「協力者会議」は100項目を数える多様なテーマがあり、それぞれに「有識者」が選ばれ会議が持たれています。文科省にとって各々の検討会は予算をより効率的・効果的に使うための装置であり、各会議の結論は独立ではなく、互いに関連し設定すべき変数なのではと推察されます。

教員を確保し、35～40人学級の改善がまず行うべき政策ではないかと、丸山さんは強調しています。より広い視点から施策を注視し、考えていく必要性を感じます。(手塚)

(\*) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/index.htm)

## なんにわ オープンデーのお知らせ

10月10日(土曜日)



今年も開催!「なんにわオープンデー!!!」

なんにわの畑でとれた新鮮な野菜をつかった料理、昨年大盛り上がりだったイケメンミュージシャンによるライブ、子どもたちのロシアンルーレットたこ焼き、超レアカードが買えるカード屋さんなど、楽しめる内容になっています。ぜひ、きてください!



2015/10/10  
 AM 11:00~  
 PM 3:00

NPO法人  
 なんとなくのわ  
 【電話】  
 090-3227-7079  
 【住所】  
 日光市平が崎522

特定非営利活動法人 なんとなくのこわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください。

http://www.nantonakuno.net/



こんな本はいかが？

## その 30: 戦争や人種差別を考える絵本

今回は、戦争や人種差別を考える絵本を紹介します。戦争や人種差別という問題は、大人自身が避けて通りたいため、子どもに考えさせる機会を子どもから奪っているのかもしれないと思うことがあります。大人の語りかけ方によっては、子どもは子どもなりの考えを深めることができると思います。子どもと一緒にこんな本を読んでみるのはどうでしょう？

◎「ぼくがラーメンを食べてるとき」 作・絵:長谷川義史

2007年 教育画劇

「ぼく」がラーメンを食べているとき、世界の国々ではいろんなことが起こっていて、子どもたちもその中で懸命に生きているということを教えてくれる絵本です。

◎「ローザ」 文:ニッキ・ジョヴァンニ、絵:ブライアン・コリアー

2007年 光村教育図書

人種差別をなくすための公民権運動の指導者、キング牧師は非常に有名ですが、ローザ・バクスという人も公民権運動の母として、アメリカの歴史の中でとても有名な人です。

ローザの静かな決断が、やがて全米を動かす大きな運動を引き起こしていきます。そのことを描いたノンフィクション絵本です。小学校中学年以上の子どもたちに是非とも触れさせたい絵本です。

◎「ぼくたちは、なぜ、学校へ行くのか。」 文:石井光太

2013年 ポプラ社

この本には、マララ・ユスフザイさんの国連演説(抄訳・石井光太)とノンフィクション作家の石井光太さんが子どもたちに伝えたいことが書かれています。「しっかりと自分の考えを作り上げ、それを人にわかってもらえるような言葉にして伝えなければならない。」と書かれています。これが案外難しいこと。それでもあきらめないで、自分の言葉で気持ちを伝え続けることが大事なのですね。

(白井)

## 私たちの活動目的:

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

## 私たちの事業:

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

## 会員について

正会員: 43

賛助会員: 19

団体会員: 4

入会金はありません。

年会費(一口)

正会員 3,000円

賛助会員

個人 5,000円

団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

## なんとなくのへや

古典には興味があるけれど言葉の壁がある。いきなり挑戦しても、なかなか読み進めることができない。源氏物語などに挫折する理由のひとつは、登場人物の会話で誰が誰に話しているのかわからなくなってしまうことだという。主語がなくても敬語に慣れれば文脈でわかるというけれど、それほど場数を踏んでいない人は

はどうしたらよいのか■昨年出版された岩波文庫版「落窪物語」の評判が良い。なるほど、本文下に配置された注釈に「若君が女君に語る」など読み手への細かい配慮があり、文庫本の進化を実感した。さて、舞台はほとんどが寝殿の中。周囲より一段くぼんだ部屋に押し込められたヒロインに襲いかかる継子いじめのあれこれで始まり、少女マンガのテンポで話が進む。継母にそそのかされて姫に交際を迫るじいさんなど、きわどい描写にときどき。女君を助ける「あこき」というけなげな侍女が活躍してハッピーエンド■「だから何なの？」というあっけらかんとしたお話の中に、当時(10世紀末に成立したらしい)の風俗が伺えて興味深い。秋の読書におすすめの1冊です。(T)